

## 令和7年度「しがこども体験活動実践交流会」

### ～こども体験活動における事業の充実に向けて～

子どもの体験活動や青少年教育に関わる機関・団体の企画運営担当者等を対象に、事例紹介や情報交換等を通して、青少年の体験活動の充実や活性化を図るとともに、各機関・団体の連携を推進する機会とすることを目的として実践交流会を実施しました。



【日時】令和8年2月10日(火)13:30～16:30

【会場】滋賀県庁 東館7階 大会議室

【対象】「しがこども体験学校」登録団体 / 各市町行政関係者(教育委員会等における体験活動担当者)

公民館・コミュニティセンターの体験活動を企画運営する担当者 / まちづくり協議会関係者

社会福祉協議会、協力者団体関係者、地域連携担当者教職員 等

【参加者】53名(来場28名、オンライン25名) ※オンライン併用

【内容】

13:00 受付

13:30 開会行事(開会あいさつ、日程説明)

13:40 事例紹介

①「子どもの体験活動の充実」に向けた取組

長期自然体験について -希望が丘夏休みわんぱくキャンプから考える-

公益財団法人滋賀県希望が丘文化公園 管理監 豊田 博 氏

希望が丘キャンプリーダー 高井 春紀 氏・此川 亜花莉 氏・島村 柚衣 氏・川上 愛理 氏

②「しがこども体験学校」登録団体の取組

世界風博物館東近江大風会館の取組について

世界風博物館東近江大風会館 館長 鳥居 勝久 氏

14:50 グループワーク

15:50 全体交流・発表

16:20 閉会行事



【事例紹介】

①「子どもの体験活動の充実」に向けた取組

公益財団法人滋賀県希望が丘文化公園における長期自然体験について、「希望が丘夏休みわんぱくキャンプ」についての活動等を紹介いただきました。自然体験において「自分で考えて行動する力」「仲間と協力して物事を解決する力」の習得や、生きる力や非認知能力の育成をとおして互いに心を成長させる活動について、成果や気づき、改善点などを詳細なデータ資料も併せて発表いただきました。参加した子どもたちだけでなく、共に過ごしたキャンプリーダーの成長や変容、事業におけるキャンプリーダー活動の継承など、持続可能な活動について、体験活動の充実に向けた方策についてもふれていただきました。

## ②「しがこども体験学校」登録団体の取組

江戸時代から男の子が生まれたことをお祝いして揚げられてきた東近江の大凧。その歴史や特徴、体験活動について伝えていただきました。国や地方の慶祝の際にも揚げられてきた大凧は、各時代のさまざまなデザインや大きさなどがあること、昭和59年から続く「東近江大凧まつり」では、100 畳分の巨大な大凧を作成したことなどを紹介いただきました。また体験活動として、大凧のよさを知ってもらうための大凧作成の工法などを体験できる機会の創出や、市内の文化や企画展と連動した体験活動の取組について、紹介いただきました。

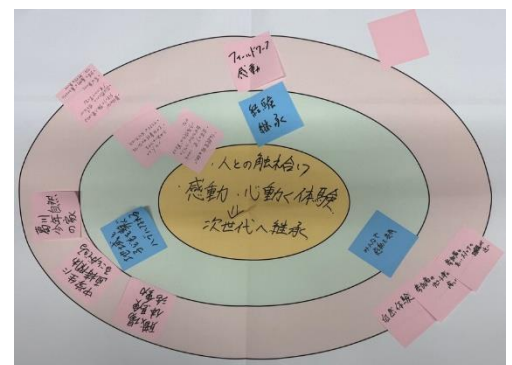
### 【グループワーク】

#### ●これからの「事業の充実」に向けて

「同心円チャート」という思考ツールを用いて、参加者の方々には、それぞれの強みやよさ、セールスポイントについてエピソードを交えて交流していただきました。そして、グループ内のメンバーとともに、テーマである「これからの『事業の充実』に向けて」のキーワードやキャッチコピーを考えていただきました。

(以下、キャッチコピーやキーワードなどを抜粋します。)

- 子どもたちのための「大人同士のつながり」
- 相互交流 ○地域の先生さがし
- 感動、心動く体験 ⇒ 次世代へ体験活動の継承
- チーム・体験・変化
- ジェネレーションギャップの解消、命の大切さ
- 憧れやカリスマ性、「知」ること、「広」めること、「0⇒1」
- 「参加型」体験活動、一人ひとりの自立
- 体験活動が普通(日常)になること



#### ●参加者のアンケートより

- ・「子どもの成長を可視化する」という発想が今までなかったので、活かしたいと思いました。
- ・伝統行事や文化を守る活動に、子どもたちを参加させている世界凧博物館東近江大凧会館の取組が参考になりました。
- ・学生さんの説明や取組を伺うことで、非常に自分の事業で参考にしたいものがありました。
- ・「(体験活動を)知る」ことの大切さがわかりました。そのきっかけづくりや、どのように参加してもらうかをこれからも考えていきたいです。
- ・他の業種や団体さんの声をきくことができ、理解できることがありました。
- ・グループワークをしてみて、ものすごく自分の事業と関連づけることができたので、勉強になりました。
- ・自分自身、これからの子どもたちのために、体験活動のような取組に携わりたいと思いました。
- ・いろいろな年代の方の意見が聞けて参考になりました。
- ・チームの大切さについて、立場の違う参加者からの話をきくことで、自分自身の気づきがたくさんありました。それと同時に、学校と地域のつながりにおける課題についても知りました。
- ・事業の充実には、「人とのふれあい」が大切だと、再認識できました。